「大正時代の思い出」（抜粋）　堀口サキ
川沿小学校（常呂村第二尋常小学校）通学の思い出
常呂町高齢者教室『昭和58年度オホーツク大学文集　トーコロ』掲載

私は福井県生まれです。明治41年３月25日生まれ。６歳の時に父母と３人で今の地に来ました。大正２年の１月の末でした。

北見から馬そりで来たのですが大雪で、馬そりは峠でひっくり返り、「助けてください。南無阿弥陀仏」と叫んだことを今でも忘れません。本当に恐かったです。

家の周りはどこを見ても山と笹原で、隣といっても遠くの方、あちらこちらに４～５軒でした。

今の竹田さんの所にわら屋根の学校がありました。７才で学校に入りました。その頃ははき物もなく、内地から持ってきたわら靴で、雨具はわらで作ったゴザでした。それを来て歩くと、お友だちがゴザが歩くと笑うので、途中で雪の中に隠し、帰りにそれを着て家に帰りました。今になって思うと、それが懐かしい思い出です。

大正８年と11年には何回となく水害が出て家まで水浸しになり、その時母は体を悪くして亡くなりました。私は６年生、妹は７才、弟は３才でした。（略）

＊注：堀口サキさんが入学した時の学校名は、常呂村第二尋常小学校で、明治41年に新築した平屋柾葺の校舎

※川沿小学校に関する注

＊明治33年７月20日　川沿特別教授場創立開校
（川沿基線９号51番　斉藤鉄四郎氏居宅に児童を収容、授業開始）

＊明治36年７月21日　部落大会開催、校舎の新築移転を協議一決
（東１線13号中野一郎氏の土地１反歩を借用し、間口３間奥行５間の校舎を新築移転）

＊明治41年　移住者激増し、児童も多くなり校舎が狭くなり、長浜菊五郎氏から基線14号82番地の所有地５反歩の寄付を受け、間口６間奥行５間の平屋柾葺の校舎を新築移転

＊明治43年12月８日　常呂村第二尋常小学校に昇格・改称

＊明治45年２月　本田留吉氏から畑８反歩の学校敷地の寄付（川沿東１線28番地）

＊大正４年３月15日　学校敷地位置が東１線28番地に決定

＊大正５年12月20日　新校舎落成